

平成 22 年 6 月 15 日
杉並区地域自立支援協議会

「障害がある方の地域医療についてのアンケート」から見えてきたこと

アンケート目的

杉並区地域自立支援協議会の地域移行促進部会(以下、本部会という)では、精神障害者の退院促進、知的障害者の地域移行促進をいっそう進めるために、地域の医療についての検討を行っている。検討の結果では、「障害者が安心して医療機関にかかるための必要な情報」や「受診・服薬を継続するためにどんな支援が必要か」などの障害者の地域で暮らす支援課題が整理されてきた。

この課題解決の第一歩として、整理された項目について実態を把握するために、今回のアンケートを実施した。医療機関と連携して障害者が暮らしやすくなるための足がかりになればと考える。以下、アンケート集計の中から見えてきたことについて記述する。

実態把握のための着眼点について

本稿の作成にあたり、本部会は精神障害者と知的障害者の地域移行促進を検討しているので、特に両障害の分野の課題に特化して記述した。

内容

- (1) 送付数 1,066 件 (当事者 892 件、支援者 174 件)
- (2) 回答数 444 件 (当事者 341 件、支援者 103 件)
- (3) 回答率 41.7%
- (4) 男女比 男 205 件、女 116 件、不明 18 件
- (5) 当事者年齢 18~39 歳 167 件、40~64 歳 150 件、65 歳以上 17 件
- (6) 支援者経験 1~2 年目 13 件、3~5 年目 22 件、6 年以上 63 件

まとめ

医療機関の情報について

- ・ 「相談先や相談相手、病院や薬局などについてわからない」や「障害者を診てくれるかどうかわからない」と答えた方が、どの障害からもあり、適切な医療機関情報の提供の工夫が期待される。
- ・ 障害者の診療体制について、将来も含め不安を持つ人が多く、障害の理解を含めた医療関係者との連携が必要と思われる。

当事者の健康情報の伝達について

- ・ 受診する側から、受診時の上手な伝え方と、医師と家族が診療内容を共有できるツールを求める声が出されており、医療機関との相談・協力のもと進められることが期待される。
- ・ 知的障害者では、当事者の健康状況やその判断、既往歴、診察結果や説明内容などの情報伝達に困難を感じる人が多く、今後は支援者や医療スタッフによる障害者とのコミュニケーションスキルや観察力の研鑽を期待する声が上がっていた。
- ・ 当事者や支援者側では、医療の情報を適切に管理し伝達する仕組みを求める声が上がっていた。
- ・ 精神障害者では、当事者と支援者に問題と覚えることに大きな乖離があるため、当事者と支援者が課題の捕らえ方の違いを認識し、どのような支援が当事者に必要かを共有する取組みが必要と考えられる。

人的支援の取組みについて

- ・ 「一人での通院」「一人での服薬管理」「通院時付き添い対応」で困難の割合が多く人的支援の必要さが明らかになってきた。同時に、仲立ちには、家族や当事者のことを理解した人の支援の必要と関係づくりが出された。さらに、服薬継続には、管理できる支援者が近くにいることの大事さも出された。これらに対応できる方法の具体化が必要である。

今回のアンケートでは、当事者・家族・支援者それぞれが、状態と悪化の判断、医療スタッフと当事者・家族・支援者とのコミュニケーション、健康を支える取組みなどで、戸惑いと不安を持っていることが分かった。

この不安を少しでも軽くしていくために、の課題について具体的な取組みを進め、地域で診療を受けやすくする検討が必要である。

また、今後の検討や支援の求め方には、当事者・家族・支援者などで違いが見られるので、当事者にとって納得できる有効な方法を話しあい具体化していく人的支援の取組みで重要になると考える。

以上